

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : Radford University

留学期間 : 平成 28 年 8 月 30 日 ~ 平 29 年 5 月 9 日

前期に授業を4つ、後期に5つ受けました。前期は、数学、マネジメント、マーケティング、中国語です。後期は、マネジメントを2つとヘルスを2つ、ビジネスローです。前期は、成績優秀者として学部長賞に選ばれました。履修科目の中で、一番楽しかった授業は中国語です。何故、アメリカで中国語を履修したのかとよく聞かれます。英語だけでなく中国語を初め、韓国語や日本語など言語自体に興味がありましたが、大阪の大学では、英語を多く履修していたので中国語科目の履修ができなかったためです。少人数の授業で、日本に興味のある学生も多く、親しく接してくれました。友達も出来て、お寿司のお店にドライブで連れて行ってくれました。前期セメスターでは、アメリカ人教授でしたがその教授の TA の中国人学生とマンツーマンで週1回30分中国語を話す機会が設けられていました。その時間は、週3回ある授業とはまた別だったので多いなと感じることもありましたが、苦痛よりも楽しさのほうが大きかったです。中国語のテストでは、会話が中心の内容も多かったです。中国語基礎のわりにはレベルが高く、ドロップして次のセメスターに再履修している学生も多かったですが、無事 A の成績をとることができました。エクストラクレジット（必修以外の授業単位）のために、学内の中国雑技団の公演を鑑賞したり意欲的に授業を受けたりしていたためだと思います。数学の授業でも、友達ができました。数学の授業の教授が中国人の方だったこともあり、授業終わりによく質問をしにいていましたが、その時に、アメリカ人学生2・3人が一緒になって教えてくれてそこから仲良くなりました。数学の問題は、日本で習ったような計算問題の他に英語の文章問題もあり、それが難しかったです。毎週の課題提出は79点のBで満足せず毎回再テストを受けてAをもらう努力をしていました。その甲斐あって無事Aをもらうことができました。マネジメント101の授業は、毎回異なるゲストスピーカーの方が訪れてスピーチをしてくださるというものでした。毎回違う英語の訛りと速さの違いについていけず、苦痛な授業でした。授業後は悔しさと焦りで毎回激しく落ち込んでよく泣いたりしていました。毎週150問の経営分野のクイズをこなせば単位は取れる授業だったので、段々出席する学生は減って初回到50人程度いた学生が15人程しか来ない日もよくありました。授業が一緒だったマレーシア人の友達も、来なくなりました。全教科Aをとることが目標だった私は、そういった状況でも出席するように努めていました。その甲斐あってかAを頂きました。マネジメントの授業は、その他にグループでラドフォード学生のための便利なシステムを開発しPR動画を製作するという取り組みがありました。寮の部屋から食堂に毎回食べるためだけに外出することが煩わしかった私たちは、デリバリーが出来るラドフォード学生専用アプリを考案しました。

マーケティング101の授業は、前期では一番嫌いな授業でした。グループ活動で相手にされなかったために途中で抜け出したこともありましたが、しかし、教授とコミュニケーションをとるようにしていたのでよく気にかけて頂けたおかげもあって、スムーズにグループ活動も進みました。授業内容は、経営者になるためにはクリ

クリエイティブが必要ということで発想能力が求められるものでした。この授業の目標は、クリエイティブなシステムを考案してコンペティションで競うことです。これは、先ほどのマネジメントの授業内容で出ていた PR 動画を作るという課題と同じです。経営学を専攻している学生全体が競うプログラムだったので、2 教科ともこれに向けて用意しなくてはなりません。この教科のグループでは、ラドフォード大学のパーキングを便利にするシステムでした。このシステムを作るために、マインドマップを用いてより想像を広げたりしていました。この課題だけでなく、クリエイティブに関する本の読書感想文や学期末テストでもマインドマップを用いて自分の発想を引き出す機会が多かったです。こちらのグループ活動では、グループ招集の知らせが私に入らなかつたり行ってもいなくなつたりしたので実際あまり参加できませんでしたが、学内ですれ違った時に PR 動画に使う動画を撮らせてほしいと言われて私も少し参加することができました。大嫌いな教科でしたが、泣きながら授業に参加したり教授が話を聞いてくれたりしたおかげで B をもらうことが出来ました。これらの努力の仕方を将来、就職先でも活かしたいです。